

「若者が主役!地域まるごと活性化事業」

みんなで考え、今日から始める防災

おかやまバトン実行委員会 玉野市立中央公民館

○日時:平成 29 年 1 月 22 日(日)

○会場:玉野市立中央公民館

○参加者:岡山県立玉野高等学校、岡山県立光南高等学校 生徒 計 31 名

○実施団体:「おかやまバトン」実行委員会

2011 年の東日本大震災をきっかけとして「何かしたい」という想いを持った岡山大学生と教職員の有志によって結成された被災地支援団体である。現在は岡山大学・ノートルダム清心女子大学の学生を中心に約 15 名で活動をしている。

○事業概要

岡山県は日本の中でも災害の少なく、住みやすい地域だと言われている。しかし裏を返すと、岡山に住む人々の防災意識は低いとも言える。いつ起こるかもわからない南海トラフ地震という危機もある中、我々が住む岡山の防災意識を向上させることを目的としたイベントを企画した。イベントの対象は将来の岡山を担い、次世代のリーダーとなり得る高校生とした。

防災リュックの中身を考えるワークショップや非常食の実食といった活動を通して、防災グッズを身近に感じたり、関心を持ったりすることによって今回のイベントが防災意識向上のきっかけになることをねらいとした。学生団体おかやまバトンが企画・運営し、玉野市教育委員会、玉野市立中央公民館にご協力いただいた。

○主なイベント内容と目的

【防災リュックの中身を想定するワークショップ】

事前にリストアップされたグッズの中から緊急時に役立つようなものを選び、オリジナルの防災リュックを作成するワークショップを行った。リュックが完成したら市販されている防災リュックと野上を比べて確認する作業を行い、自分たちが役に立つと思ったものや不要だと思ったものと実際に必要なものとの共通点や相違点などを確認する。災害に対する備えの甘さを実感することや、どういったときに何が役立つのかということも学ぶことを目的に設定した。



【非常食の試食体験】

市販の非常食や、防災リュックの中に入っている非常食を実際に食べる活動をした。おいしくなく質素であるという非常食のイメージを払拭し、様々な非常食を食べることでより身近に感じること、そして調理の仕方を知ることがを目的に設定した。



○成果

玉野市教育委員会の方々の呼びかけや各校の先生方のおかげもあり、多くの高校生に参加してもらうことができた。どの参加者も真剣に話を聞いてくれたり、積極的にワークショップに参加してくれたりしている印象を受けた。防災意識が低いと言われる岡山県だが、今回のイベントに参加してくれた生徒たちの防災に対する意識や、玉野市の防災に対する意識が高いように感じられた。

防災リュックを作成するワークショップでは様々な意見が飛び交い、一人では気がつけなかった視点に気づくことができたようである。なぜそのグッズを入れるのか、このような状況においては役立つのではないかとというように具体的な状況を想定した話し合いも活発に行われていた。

非常食の試食体験については好評で、カレーやサバの味噌煮などは冷めていても十分おいしいという声も聞けた。参加者の中には中学生の時に給食で非常食用のカレーを食べたことがある生徒もいたが、そのときと比べると今回のカレーの方がおいしいと言ってくれた。「非常食でもおいしい」という印象を持ってくれたようだった。

○課題と今後の展開

今回のイベントではグループの意見を全体に共有する時間をあまりとることができなかつたり、個人の意見を拾うことができなかったため、このイベントを通してどれだけの参加者の防災意識が向上したのかがわかりにくかった。今後はイベント前と後で意識の変化を確認できるアンケートのような工夫が必要であると感じた。

一回きりでは防災に対しての意識を持つきっかけを提示できたに過ぎないので、回を重ねることで防災に対する意識の定着をはかりたい。その他、今回はイベントの対象であった高校生が主催者となって公民館で防災イベントを企画できると、この活動が地域に根付き今後も続けて行くことができ、公民館も活性化するのではないだろうか。

